

戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）
『次世代農林水産業創造技術』推進委員会（第2回）議事要旨

1. 日 時 平成26年11月 4日（水）14：30～15：30
2. 場 所 中央合同庁舎4号館2階共用220会議室
3. 出席者：（敬称略）

久間 和生 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員

（議長）西尾 健 内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付プログラムディレクター

サブ・プログラムディレクター

野口 伸 北海道大学 大学院農学研究院 教授
佐々木 卓治 東京農業大学 総合研究所 教授
阿部 啓子 東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授
小野 拓邦 東京大学 名誉教授

戦略コーディネーター

西口 修 (株)日立ソリューションズ 空間情報ソリューション本部 GIS部 部長
山本 正美 タキイ種苗株式会社 茨城研究農場長
山野井 昭雄 味の素株式会社 社友（元副社長）
荒木 英一 住友精化株式会社 常務執行役員（精密化学品事業部長）

前原 正臣 内閣府宇宙戦略室 参事官
田沼 知行 総務省情報通信国際戦略局技術政策課 企画官（代理：北村 隆雄 課長補佐）
宇都宮 仁 国税庁課税部 鑑定企画官
堀内 義規 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 課長（代理：馬場大輔 課長補佐）
松尾 浩道 文部科学省研究開発局 環境エネルギー課 課長
安岡 澄人 農林水産省大臣官房政策課技術調整室 室長
松尾 元 農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 課長
鈴木 富男 農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 技術安全室 室長
田中 健一 農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課 産学連携室 室長
中谷 誠 農林水産省農林水産技術会議事務局研究統括官（食料戦略、除染）室 研究統括官
寺田 博幹 農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発官（食の安全、基礎・基盤）室 研究開発官
波積 大樹 農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）室 研究開発官
塩野 隆弘 農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）室 研究調整官
生田 和正 水産庁増殖推進部研究指導課 参事官
浜野 敏夫 経済産業省産業技術環境局研究開発課 研究開発調整官
新階 央 経済産業省製造産業局生物化学産業課 産業分析研究官
吉川 和身 環境省総合環境政策局総務課 環境研究技術室 室長
齋藤 薫 農研機構生研センター企画部企画第1課 課長
古市 喜義 科学技術振興機構経営企画部 研究監

事務局

山岸 秀之	内閣府 科学技術・イノベーション担当	審議官
福田 敦史	内閣府 科学技術・イノベーション担当	参事官
中川 一郎	内閣府 科学技術・イノベーション担当	企画官
中村 真人	内閣府 科学技術・イノベーション担当	研修員

4. 議題

- 1 SIPの研究推進体制について
- 2 研究開発計画について
- 3 今後のスケジュールについて

5. 配付資料

- 資料1 戦略コーディネーター及びサブ・プログラムディレクターについて
- 資料2 代表研究機関及び代表研究者について
- 資料3 SIPと平成27年度科学技術重要施策アクションプラン（AP）との連携
- 資料4 SIP次世代農林水産業創造技術 研究開発計画
- 資料5 今後の主なスケジュール

- 参考1 公募研究における審査結果について
- 参考2 研究管理WGの設置について
- 参考3 平成26年度SIP実施方針
- 参考4 SIP平成26年度評価について

6. 議事要旨

- 1 SIPの研究推進体制について
- 2 研究開発計画について
- 3 今後のスケジュールについて

議事に先立ち、久間議員より、SIP設立の経緯・趣旨、SIPを取り巻く状況、当課題への期待について、ご挨拶があった。また、西尾PDから、これまでの経緯、農業を取り巻く環境、当課題が目指している方向性について説明があった。

議事の進行は、議長の西尾PDによる。

1. SIPの研究推進体制について

資料1から3に基づき、に事務局から説明がなされた。

戦略コーディネーター、サブPDから自己紹介および担当する研究分野の研究の進め方について説明があった。

西尾PDより、研究を推進する上での論点に関し、以下の点について発言があった。

【西尾PD】

- ・短期的に成果が出る分野と時間がかかる分野の見極め、それぞれにあった戦略をねることが重要。
- ・SIP全体の相乗効果が発揮できるように、コンソーシアム間、分野間の連携が重要。

- ・現場への実装、事業化について、ビジネスモデルをどのように構築してくかが重要。
- ・研究を進める過程で、研究項目の選択と集中を進める。研究代表者には覚悟をしていただきたい。
- ・国際標準化、知財戦略を意識して研究を進めることが重要。

【山野井戦略 C】

- ・食品業界は国際化が進んでいるが、食品の輸出に関しては、食文化の壁があることが特徴。
- ・しかし、機能性食品については、食品そのものではなく、食品に含まれる成分に関することなので、食文化の壁がないと思われ、輸出する上での障害はない。
- ・機能性成分について、科学的エビデンスが示され、国際的に認知されるレベルであれば、海外でも売れる。

【野口サブ PD】

- ・農業の自動化・ICT化に関して、SIPで開発する技術は、日本の作物や気象を前提に開発されるが、フレームワークは世界共通に展開できる。SIPでいい成果が出ればグローバルに打って出ることが可能。

【佐々木サブ PD】

- ・ゲノム編集に関しては、海外でかなり特許が押さえられているので、新たに我が国で開発することが求められる。世界の研究の進展が早いので、情報を漏れなく収集することが重要。
- ・遺伝資源をさらに掘り下げて、その中から未利用な情報をくみ取って、育種に使うことも重要。
- ・それらをうまく組み合わせれば、5年間に於いてSIPにおいて開発した技術を、海外が求めている高品質な作物の育種に利用していくことが十分に可能。

【小野サブ PD】

- ・林業の立場からいうと、森林を育てながら持続的に使っていくという観点が重要。

2. 研究開発計画について

資料4に基づき、研究開発計画の修正部分（太陽光型植物工場の研究開発項目への追加配分、研究責任者の追記）を中心に事務局から説明がなされた。

3. 今後のスケジュールについて

資料5に基づき、事務局から説明がなされた。

以上